地域活性化

令和8年10月作成
北海道農政事務所旭川地域拠点

農産物加工で働く場を創出！地域活性化への挑戦

上田　卓司さん（苫前町）



【組織等の概要】

▽上田氏の農業経営の概要（農産物の生産）
- 農業従事者数：5名（上田氏と家族3名、常雇い1名）
- 経営面積：56ha（水稲19ha、小麦18ha、大豆9ha、小豆3ha、かぼちゃ4ha、アスパラ20a等）

▽上田ファーム株式会社（農産物の加工・販売）
- 代表取締役　上田　卓司氏
- 従業員数：役員2名（上田氏、妻）、パート1名
- ホームページ：https://uedafarm-tomamae.com/

◇【取組の経緯と概要】

◆ 高校進学時に地元を離れてから、故郷の苫前町や家業である農業に対する思いが強くなり、大学を経て民間企業で社会経験を積んだ後、平成26年（31歳）にUターン就農。
◆ 就農後、収益性が高く、冬季の雇用創出にもつながる加工品の製造・販売にも取り組みたいと考え、北海道の郷土料理である「かぼちゃ団子」を商品化。
◆ 新たな農産物加工品の開発を行う中で、平成31年に農産物の加工・販売を専門に行う上田ファーム株式会社を設立。令和3年には地域の中心部に農産物加工場兼店舗を整備し、製造・販売作業を効率化。直近では自身で生産した農産物だけでなく、苫前産小麦を使用した「かぼちゃうどん」を開発。
◆ 地域住民が集う場所とすることを目指し、農産物加工場の設備を活用して、冬季に週2回のパンの製造・販売を始めた。来店客からは好評で、売れ行きも良い。

【取組の成果】

- 農産物加工やパンの製造に取り組むことで、原料として出荷するよりも付加価値がつくため、収益が上がった。また、苫前産農産物を使用することで、地域の活性化にもつながっている。
- 農産物加工をきっかけにメディアへの露出が増え、町のふるさと納税の返礼品になるなど、当農場と苫前町の認知度が向上。雇用の確保や町外からの集客につながり、地域振興に貢献している。

【今後の取組】

- 農産物、加工品の売り上げを現在の10倍に拡大したい。個人の経営だけでは目標が達成できないため、新規就農を目指す者を支援し、フランチャイズのような仕組みを作り、道内外で展開していきたい。それらの取組を通して、社会に貢献していきたい。



▲農産物加工場兼店舗



▲シマエナガのパン



▲かぼちゃプリン



▲かぼちゃ団子